

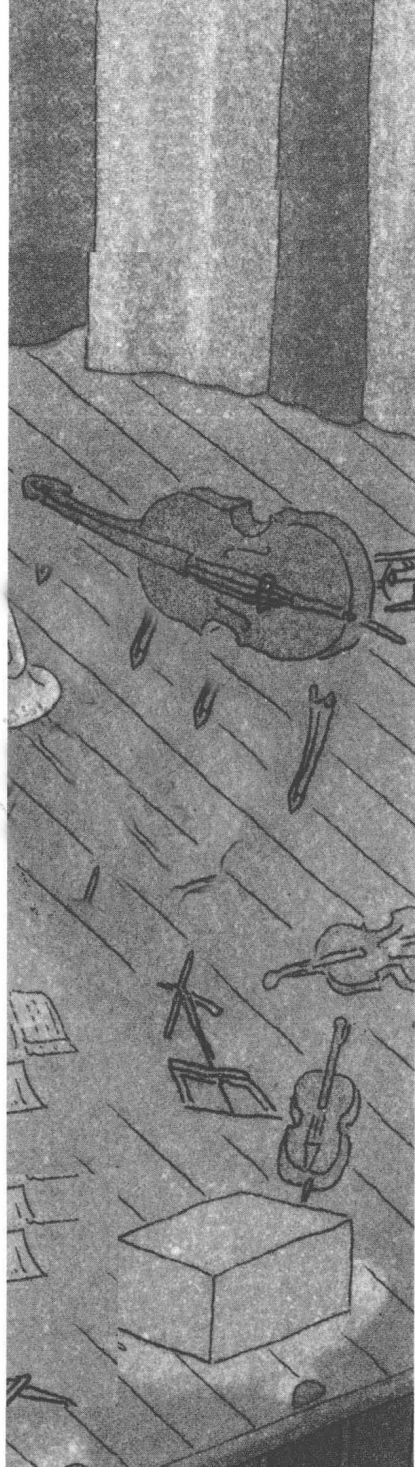
宇宙のみなもの滝

山口泉



新潮社

のみなもとの滝
山口泉



うちゅう
宇宙のみなもとの滝
たき

やまぐち いずみ
著者／山口 泉



印刷／1989 年 12 月 1 日

発行／1989 年 12 月 5 日

発行者／佐藤亮一

発行所／株式会社新潮社

郵便番号 162／東京都新宿区矢来町 71／振替東京 4-808

電話・業務部 03(266)5111・編集部 03(266)5411



印刷所／三晃印刷株式会社

製本所／加藤製本株式会社



© Izumi Yamaguchi 1989, Printed in Japan

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが小社通信係宛お送り
下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

ISBN4-10-375201-7 C0093

価格はカバーに表示してあります

宇宙のみなもの滝 目次

関係天体群・一覧表／おもな登場人物 7

*

読者の皆さんへ——三つの質問 10

序 詞 燃えがらの世界 11

*

第一部 朝 15

第一章 水たまりの空 16

第二章 校長室で 25

第三章 座長の心配 35

第四章 ネンカへ——夜明けまえに 43

第五章 開 演 54

第二部 ミュージカル『宇宙のみなもとの滝』

第一幕 レンゲ畑 70

第二幕 草の家 85

第三幕 夢見る丘から 119

第四幕 緑の海 163

第五幕 (一) 《世界のみなもとの国》にて〔途中まで〕 199

第三部 真昼 263

第六章 “二人目”の主役 264

第五幕 (二) 《世界のみなもとの国》にて〔完結篇〕 284

終幕 十年後のレンゲ畑 295

第七章 見えない部分の事件 306

*

終章 ネンカへ——《木枯らしの函》は、どこへ…… 325

案内状でもある、あとがき 332

装画
小浦
昇

宇宙のみなもの滝

—La Akvofaloj de la Origino de la Universo—

苦しみを生きる人びとに――

關係天体群・一覽表

危（ウミヤメ）……現在までに知られている全宇宙で、生命の存在する唯一の星団——地球系三連星・第一星。七大陸・十二大洋からなる、生物の居住に最も適した惑星。かつて種々の精神的文化が栄え、いまは大いなる物質的繁栄を謳歌する。だが生物化石系燃料資源は涸渇し、すでに食糧は自給できない。参（カラスキ）……地球系三連星・第二星。いわゆる「新大陸」。かねてから危の植民星として、各種資源と労働力・潜在的購買力に富む点が注目されてきた。多種多数の先住民族と多様な伝統文化は依然として滅んではいないが、明らかな衰微の傾向にある。ステーロはこの星に生まれた。

尾（アシタレ）……地球系三連星・第三星。いわゆる「極地」。人間はもちろん、生物の居住そのものに適さない、苛酷な自然条件を運命づけられた荒寥たる星。星間連絡船の便が悪く、危の各国・中央政府の影響が及びにくいこともあって、古来、地球系三連星における政治的陰謀・工作の主要舞台となつた。また、少数民族《光の睫毛》族が抑圧・虐待されている星としても著名。二十一星三十二郎は、この星で青年時代の一時期を過ごしたことがある。

翼（タスキ）……いまは消滅した彗星。この物語の始まる三十二年前から二十一年前にかけて前後五回だけ、地球系三連星の軌道内に周期的に侵入、その特異な電磁波の影響により、危、参、尾のすべての星に、ほぼ百万人に一人の割合で、《オーロラの児》を出生させる。

おもな登場人物

【ミュージカルの外の世界の人物たち】

ステーロ 少年。参^{カラスキ}の一国家・北風共和国の貧しい田舎町《冬の森^{イタ・ニタイ}》町に生まれ育つ。

ベラーコ 少年。参^{ワミヤメ}から危^{ヤミヤメ}の演劇学校に留学中。《冬の森》町の「希望の星」。

二十一^{にじゅういち}星^{ほし}三十二^{さんじゅうに}郎^{ろう} 詩人。元・オーロラ予報技師。《世界の思い出》座・座付き劇作家。本名・西埜^{とりの}森夫^{もりお}。

座長 《世界の思い出》座・座長。

校長 《冬の森》町立小学校・校長。

アルヂェント 少年。ステーロの同級生。

フローロ 少女。ステーロの同級生。

演劇監察官

ネンカ 二十一星三十二郎の「娘」。母とともに危に暮らす。三歳。

ターチョン親方 星間密航幹旋業者。

アザラシの皮の服を着、蛙^{うゑ}の鰐^{うなぎ}で貌を包んだ男たち（星間憲兵隊）

*

【ミュージカルのなかの世界の人物たち】

蜜彦 養蜂業者。五十歳ぐらい。

鳥夫 世界のどこにも、身寄りのない少年。人間ではない自然発生生命、タカラ・ライオチの一人。

ミツル 少年。《夢交換クラブ》会員。

ユウコ 少女。《夢交換クラブ》会員。

冬森ヒロシ（実は、イタク） 少年。ただし、九百九十九歳。

草原サト子（実は、ニンカリ） 少女。ただし、九百九十八歳。

《真夜中には光る鳥の羽根毛絵》 売り 女。年齢不明。

《世界のみなもとの母》 少女。百億歳。

《木枯らしの函》をもつ人

ハチミツ会社社長

ハチミツ会社社員

市会議員

婦人会会長

TVの女性レポーター

医師

原子物理学者

哲学者

刑事

読者の皆さんへ——三つの質問

質問・その一……あなたの人生での、いちばん初めの思い出は、どんなものですか？ よろしかったら、話してください。

質問・その二……あなたが世界で、いちばん大切だと考えている人（物）、または「こと」は誰（何）ですか？ そして、それはなぜですか？ よろしかったら、教えてください。

質問・その三……あなたはあなたが死ぬとき、あなたが去ってゆこうとするこの世界が、どんなふうになっていてほしいと思いますか？ よろしかったら、聞かせてください。

序 詞 燃えがらの世界

そう あなたはきょう 気づいたでしょう？

いま あなたの生きている

この世界が

実はもう何千年も昔に灼^やきつくされ

燃えつきた

巨きな おおきな燃えがらに

すぎなかったということに――

眼をこらしても

何も見えない

はてしない灰と泥と煙のなかを

あなたは小さなちいさな砂粒となって

漂うだけ

あなたの寂しさ

あなたの苦しみ

あなたの悲しみ

それを聞く人は 誰もいない

それを知る人は どこにもいない

それは ただ

あなただけのもの

だけど

あなたは気づいたかしら

あんな向こうの遠くの方で

泥に浸った花びらが一枚

もう一度 東からの風に乗ろうと

けんめいに身構えていることに

翅^はのとれかかった蜜蜂が一匹

それでもなお 太陽の光を感じようと

分厚い鉛色の雲のなかを

どこまでもどこまでも昇ってゆくのに――

会うことはできない

声も届かない

だけど

あなたはそれを見たでしょう？

そして……気づいたでしょう？

あなたもまた

あの花びらや 蜜蜂たちと

同じすがたをしていることに

いちばん 小さいもの

いちばん 弱いもの

いちばん 惨めだと

いわれつけてきたものだけが

いまなお かすかに息づいて

眼をいっばいに見開いている

この世界

この何もない燃えがらの世界で

一人のこらず 独りぼっちで――

《……幕が上がるまえ、すべての物語の始まるまえに、低い、じゅうぶんに豊かなふくらみと
艶やかさをもった女性の声で、序詞の朗読。途中から、それは穏やかで伸びのある歌声とな
り……やがて、静かに止む。数秒ののち、開幕——》